

後期臨床研修医募集



北海道留萌市立病院

留萌市の概要



留萌市は、北海道西北部における留萌支庁管内の中心都市であり、水産加工を基幹産業とし、さらに国の重要港湾を核として、たゆまぬ発展を続けているマチです。

市の地形を概観すると、東西に走る留萌川を中心に両翼には平原、丘陵が続き、南側の地形は比較的高度のある山並みがあり、北部は低位な丘陵地です。

市の中心部は商店街によって形成され、南部には官公庁、学校、住宅地が広がっています。

豊かな自然に恵まれた留萌市は、西には日本海、南北には暑寒別天売焼尻国立公園が連なり、暑寒別山系をはじめ夢の浮島といわれる天売・焼尻が望めます。特に晴れた日には、遠く利尻・礼文の島影が夕陽の輝く日本海に浮かぶ姿が見られ、風光明媚なマチです。



(天売・焼尻、利尻富士を望む)

留萌市立病院の概要

- 建設竣工 / 平成13年3月
- 診療科目 / 内科、消化器内科、循環器内科、呼吸器内科、神経精神科、小児科、外科、整形外科、産婦人科、皮膚科、形成外科、泌尿器科、耳鼻咽喉科、眼科、脳神経外科、麻酔科、放射線科、病理診断科、リハビリテーション科（計19科）
- 病床数 / 354床（一般病床300床、療養病床50床、感染症病床4床）
- 各種指定等

指 定	施設の認定等
<ul style="list-style-type: none"> ・ 救急告示 ・ 病院健康保険指定病院 ・ 国民健康保険指定病院 ・ 原爆被害者医療指定病院 ・ 労災保健医療指定病院 ・ 老人保健法指定病院 ・ 結核予防法医療指定病院 ・ 特定疾患治療研究事業指定病院 ・ 小児慢性疾患医療指定病院 ・ 地域センター病院 ・ 管理型臨床研修病院 ・ 協力型臨床研修病院 ・ 肝疾患に関する専門医療機関 （平成22年1月25日） ・ 総合内科医養成研修センター （平成22年10月12日） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本内科学会認定医制度教育関連病院 ・ 日本麻酔学会麻酔科認定病院 ・ 日本血液学会認定血液研修施設 ・ 日本泌尿器科学会専門医教育施設 ・ 日本消化器病学会専門医制度認定施設 ・ 日本外科学会外科専門医制度修練施設 ・ 日本消化器外科学会専門医制度専門医関連施設 ・ 日本呼吸器外科専門医合同委員会認定関連施設 ・ 日本病理学会研修登録施設 ・ 日本臨床細胞学会認定施設 ・ 日本がん治療認定医機構認定研修施設 ・ 日本乳癌学会関連施設 ・ 日本消化器内視鏡学会指導施設 ・ 日本家庭医療後期研修プログラム（日本家庭医療学会） ・ 日本眼科学会専門医制度研修施設

プログラムの運営

1. 研修の理念

「地域住民」に対して最も適切な医療が提供できる医師を育成します」

【理念の趣旨】

留萌市立病院の理念の下、地域医療の向上に努め、診療以外に救急医療、病診・病病連携、在宅医療、疾病予防、公衆衛生活動、健診、人間ドックをとおして地域住民に対して最も適切な医療を提供できる医師を育成する。

2. 研修管理体制

研修管理委員会を組織し、留萌市立病院後期臨床研修プログラムを運営する。

3. 研修の目的及び修了

すでに初期臨床研修で取得しているプライマリ・ケアの基本的な診療能力をさらに高めることに加え、専門とする診療科の学会の認定医や専門医取得に向けて基礎を身につける事を目的とする。

またこの他、別添に掲げる診療科プログラム毎に目標及び修了の基準を定める。修了の認定は指導医の評価を参考に研修管理委員会が認定し、修了証を発行する。

4. 研修の特徴

- 1) 単一の診療科、または複数の診療科を希望により選択研修することができる。
- 2) 学会活動を積極的に支援する。
- 3) 専門外の症例についても気軽に相談できる体制となっている。

5. 研修期間

診療科プログラムごとに設定

「内科（消化器内科）」研修プログラム

1. 診療科の概要

当院内科・消化器科は2病棟86床を有しており、スタッフは常勤5名で診療にあたっています。

当科は消化器科を中心として一般内科・膠原病・内分泌・免疫・感染症・血液と幅広い分野の診療を行っています。

当科の年間内視鏡検査件数は、上部消化器官内視鏡約1,650件、下部消化器官内視鏡約790件、内視鏡的逆行性胆管膵管造影約50件です。

また、近年注目されている経鼻内視鏡やダブルバルーン式小腸内視鏡検査も積極的に行っており、治療内視鏡もESD（内視鏡的粘膜下層剥離術）をはじめとしてEMRやポリペクトミー、ESTやEPBD、さらに胆道ステント留置術や消化管悪性狭窄に対するステント留置術も行っております。

その他には、PEG（内視鏡的胃瘻造設術）など患者様のQOLを重視した治療も行っています。

2. 学会認定施設

- ・日本内科学会教育関連施設
- ・日本消化器病学会認定施設
- ・日本消化器内視鏡学会指導施設
- ・日本がん治療認定医機構認定施設

3. 研修概要

消化器疾患の診断・治療が的確に行えることを目的とし、日本内科学会認定医および日本消化器病学会専門医の認定を最終目標として研修を行います。

詳細のスケジュールは個人の希望を踏まえ、個別のスケジュールとなりますが、概ね外来（入院）診療での内科的診断、治療方針の策定、検査・治療の実施によるスキル修得、救急での緊急的診断治療への対応などを総合的に学んでいただきます。

4. 研修期間 2年間

5. 指導医

- ・ 笹川 裕（病院長、日本消化器病学会専門医、日本消化器病学会指導医、日本内科学会認定医、日本人間ドック学会認定指定医、日本血液学会専門医、日本医師会認定産業医）
- ・ 荃津 武大 医学博士号
（日本消化器病学会専門医、日本内科学会認定医、日本消化器内視鏡学会指導医、がん治療認定医、肝臓病専門医）
- ・ 西川 尚（日本内科学会認定医、日本医師会認定産業医）
- ・ 野田さや香（日本内科学会認定医）
- ・ 永島 裕之（日本消化器病学会認定医、日本肝臓学会専門医、H. Pylori（ピロリ菌）感染症認定医、日本内科学会認定医）
- ・ 保木 寿文（日本消化器病学会専門医、日本内科学会認定医）

6. 研修医の方々へのメッセージ

消化器疾患のスペシャリストになるには、個人的な勉強による知識の習得はもちろんですが、できるだけ多くの症例に携わり実践を通して治療技術を習得していくことが大事であると思われます。

当院は留萌管内全域より患者様が集まり、症例は非常に豊富ですので研修には最適な環境と言えるでしょう。

また、消化器以外の疾患を抱えている患者様も多く、総合的な内科の実力も同時に養うことを目標とし、指導を行っていきたいと思っております。



(豚の胃を使ったESD体験)

「るもい家庭医療」後期研修プログラム

1. 診療科の概要等

平成20年4月に留萌家庭医療後期研修プログラムの認定を受けました。

当院は地域センター病院・救急告示病院等の指定を受けており、留萌管内の中核病院としての使命を担っておりますが、管内の地域医療の充実を図るためには、様々な診療科を幅広く診察ができる医師の確保・養成が求められているため、管内の一次医療を守ることができる医師を養成します。

家庭医を確保できた場合には、当院では総合内科医として診療に従事し、及び管内町村の診療所等へのローテーションによる派遣体制の構築を目指しております。

2. 学会認定施設

日本プライマリ・ケア連合学会認定施設

3. 研修概要

地域の基幹病院である留萌市立病院における各種診療科や救急での研修のほか、本院に隣接する東雲診療所、増毛町立市街診療所、北海道立羽幌病院（離島診療所含む）での研修など、有機的な広域医療連携のあり方も学ぶことができます。

プログラム1年目は、東雲診療所において内科系一般外来や健康診断、在宅医療などを3ヶ月以上行い、留萌市立病院において総合内科病棟研修（3ヶ月以上）、小児科研修（3ヶ月）を行います。救急研修は年間を通して定期的に留萌市立病院救急外来で指導医のもと診療し、幅広い救急初期対応を研修します。

2年目は、内科・その他の選択科目の研修を行います。北海道立羽幌病院または増毛町立市街診療所での研修を選択することも可能です。

3年目は、6ヶ月間を北海道立羽幌病院での研修とし、残りの期間を東雲診療所及び留萌市立病院で研修を行い、プログラム終了後には家庭医療専門医の取得を目指します。

また、教育環境としては、外部講師または院内指導医による「留萌研修セミナー」（毎週水曜午後）、論文抄読会（毎週火曜朝）、C P C、内科・外科・病理合同カンファランスなどの各種勉強会が開催されているほか、市内にある「るもい健康の駅」において保健指導や健康増進の取り組みに参加し、地域住民や行政担当者、保健福祉関係者と交流を持つことにより、地域包括医療を実地で学ぶことができます。

4. 研修期間 3年間

5. 指導医

- ・ 笹川 裕 (プライマリ・ケア認定医・指導医)
- ・ 高橋 文彦 (プライマリ・ケア認定医・指導医)
- ・ 西川 尚 (プライマリ・ケア認定医・指導医)

6. 研修医の方々へのメッセージ

高齢化が進んでいる留萌地域では、当院を中心とした管内各診療所との連携により、地域医療を守ることが必要であり、当院で養成・確保した家庭医を各診療所等に派遣できる体制を築くことを目指しております。

当地域の実情を理解し、地域医療を守るためにご協力をいただけることを期待しております。



(市立病院に隣接する東雲診療所)

「内科（循環器内科）」研修プログラム

1. はじめに

循環器内科では、急性冠症候群、急性心不全、頻脈性および徐脈性不整脈などの急性疾患や、狭心症、弁膜症、拡張型および肥大型心筋症、慢性心不全、高血圧、脂質異常症、糖尿病などの慢性疾患の診断と治療を行っています。

離島を含む広域な医療圏の地域センター病院・循環器内科部門として、最新の診断・治療技術に基づいて患者様を診療しています。

2. 学会認定施設

- ・日本循環器学会研修関連施設

3. 研修概要

当科研修では、循環器疾患に対する専門的な知識・技能の習得のみならず、心疾患の慢性期管理や危険因子の管理、予防活動などを通じて、地域医療の全体像の中での循環器病学について理解することを目標としています。

また、循環器専門医の取得はもちろん、並行して内科学会認定医取得を目指し、幅広い症例を経験することを目標とします。

4. 指導医

- ・高橋 文彦（副院長、プログラム責任者、日本内科学会総合内科専門医・指導医、日本循環器学会専門医、新臨床研修指導医）
- ・大蔵美奈子（日本循環器学会専門医、日本内科学会認定医）

5. プログラムの特徴

（1）豊富な症例

留萌管内唯一のカテーテルインターベンション施設として豊富な症例を経験できます。

年間入院患者：370人

急性冠症候群（10例）、狭心症（50例）、心不全（80例）など

（2）研修医のニーズに応じた3つの研修コース

1）循環器専門医コース（1年以上）

日本循環器学会認定の循環器専門医を目指している方。当院は研修関連施設です。必要な研修期間のすべてまたは一部を当院で行います。

2）循環器系総合医コース（1年以上）

専門医取得を目指さないが、循環器疾患を幅広く学びたい方。将来総合医・家庭医などを目指す方の循環器中心の研修を提供します。日本内科学会認定医・総合内科専門医取得を目指す方は、必要な研修期間のすべてまたは一部を当院で行います。

3）リサーチ選択コース

臨床研究または基礎研究に興味のある方は、大学病院（札幌医大、旭川医大）と連携し、研究的なアプローチに触れる機会を提供します。

6. 到達目標

目 標：患者中心の全人的医療を行い、かつ循環器専門医として幅広い診療能

力を習得する。

行動目標：日本循環器学会「循環器専門医研修カリキュラム」に基づいて多くの症例を経験する。

急性および慢性疾患の診断・評価・治療が自らの判断で実践できる能力を身につける。

良好な患者・医師関係が構築でき、チーム医療の構成員として他のスタッフと協調して診療を行うことができる。

内科認定医、循環器専門医を取得する。

7. 研修内容

- ・病棟診療（医療面接、基本的身体診察、検査・治療計画の立案と説明）
- ・各種検査（心電図、心血管エコー、心臓核医学検査、冠動脈CT、心臓カテーテル検査）の手技習得と読み（解釈）のトレーニング
- ・冠動脈インターベンションやペースメーカー植え込み、集中治療（人工呼吸管理・急性血液浄化など）の習得
- ・外来診療（慢性期管理や危険因子の管理、予防医学、病診連携）
- ・救急対応（救急外来当直および循環器救急当番）
- ・学会活動、研究活動

（経験できる技能・手技と実績）

標準12誘導心電図（1,370）、ホルター心電図（95）、経胸壁心エコー図（400）、経食道心エコー図（10）、負荷心筋シンチ（230）、冠動脈CT（125）、大血管等CT（25）、心臓MRI（25）、心臓カテーテル検査（85）、冠動脈インターベンション（40）、ペースメーカー植込み（15例）、対外式ペースメーカー留置術（15）

8. 週間スケジュール

	月	火	水	木	金
午前	負荷心筋シンチ	抄読会 新患外来	病棟	病棟	負荷心筋シンチ
午後	心臓カテーテル検査	心エコー検査 ペースメーカー植込 カンファレンス	症例検討会	心臓カテーテル検査	心エコー検査

9. 研修協力病院

旭川医科大学病院、市立旭川病院 ほか

「外科」研修プログラム

1. 診療科の概要

当科外科では、病床数32床、手術症例数年間約320件で、スタッフ3名で診療にあたっています。

約5万人の医療圏を背景とした地方中核病院の使命を担うため、ほとんどすべての疾患に対応することが必要です。外科プライマリー疾患はもちろん、消化器外科・呼吸器外科・血管外科、外傷などの緊急疾患にも柔軟に対応しています。

対象となる手術の内訳は、腹部一般・消化器外科手術が年間約200件、呼吸器外科疾患が約160件、血管外科疾患が約15件、乳腺・甲状腺疾患が約20

件などとなっています。また、腹腔鏡・胸腔鏡下手術も積極的に取り入れていきます。

診療の実際として、午前中に外来と病棟回診を行い、午後に手術を行います。緊急症例には随時対応しています。

2. 学会認定施設

- ・日本外科学会外科専門医制度関連施設
- ・日本消化器外科学会専門医制度専門医関連施設
- ・日本呼吸器外科専門医合同委員会認定関連施設
- ・日本乳癌学会専門医制度関連施設

3. 研修概要

まず外科専門医を取得することを最大の目標としますので、日本外科学会へ入会、修練開始登録を行っていただきます。

日本外科学会外科専門医予備試験（筆記試験）は、後期研修開始後3年目、認定試験（面接試験）は同4年目で受験することになっています。これに必要な最低手術経験数350例と術者としての経験120例を、手術難易度と個人の到達レベルにあわせて暫時経験していただきます。さらに消化器外科、呼吸器外科乳腺専門医など外科サブスペシャリティの取得を希望される場合には、外科専門医取得後おのこの一定期間の手術実績と必要な業績を持つための指導を十分にさせていただきます。

4. 研修期間 2年間

5. 指導医

- ・山崎 左雪（呼吸器外科専門医、胸部外科学会認定医、外科学会認定医、消化器外科学会認定医、マンモグラフィ読影認定医）
- ・野田 雄也（部長）

6. 研修医の方々へのメッセージ

一人前の外科医になるには決して近道はありません。

「患者の側に居たれ！！」

そして確かな手術手技と術後管理法、そして何より患者への接し方を身に付けるための日々努力と勉強を望みます。

「麻酔科」研修プログラム

1. 診療科の概要

当院では一般外科・消化器外科・呼吸器外科・血管外科・整形外科・脳神経外科・形成外科・泌尿器科・産婦人科・眼科などの症例が年間約1,450例、うち麻酔科管理のものが約700例あり、急性期の一般的な医療機関で幅広く・数多い症例を診ることができます。

また、24時間体制をとり、緊急手術に対応しています。

なお、安全性を重視し、並列麻酔はやらせません。

2. 学会認定施設

- ・日本麻酔学会の麻酔認定病院

3. 研修概要

麻酔科医として、麻酔管理と全身管理を習熟することを目標とし、日本麻酔科学会麻酔科認定医の習得を最終目標として研修を実施します。

麻酔科所属で学び、2年後（前期研修の期間も含む）「麻酔科標榜医」を申請し、麻酔科認定医を習得します。

詳細のスケジュール等は個人の希望をある程度取り入れ決定します。

4. 研修期間 2年間（専門医を目指す場合、別に期間を考慮する）

5. 指導医

- ・川田 勝己（日本麻酔科学会専門医）

6. 研修医の方々へのメッセージ

麻酔科は忙しいときもありますが、個人のための時間が最大限とれるよう努力します。

趣味のための時間や家族とのための時間を大切に考えています。

「整形外科」研修プログラム

1. 診療科の概要

当院整形外科では、病床52床、外来患者数1日約100人、年間手術症例数約420例、スタッフ2名で診療に当たっており、手術症例は外傷（骨折、脱臼、靭帯損傷など）が中心です。

留萌管内には、整形外科に関する外傷に対して手術ができる施設は当院しかないため、北は遠別町、南は増毛町までの広範囲をカバーしています。

その他に腰椎椎間板ヘルニアに対するヘルニア摘出術や変形性膝関節症に対する人工膝関節置換術など変性疾患に対する手術も行っております。

先進医療では札幌医科大学整形外科と連携して、それぞれの分野の専門医による鏡視下での脊椎、膝、肩の手術などを行っております。

外来においては小児の股関節脱臼や骨粗鬆症の検診など幅広い年代についての診療をしています。

2. 学会認定施設

- ・日本整形外科学会専門医認定施設

3. 研修概要

整形外科疾患は大きく分けて外傷と変性疾患の二つに分けることができます。

研修内容は一般外傷（創傷治療・骨折・脱臼）について実際に上級医の指導の下で診察、治療を行っていただきます。その中で特に多い大腿骨頸部骨折や橈骨遠位端骨折においては手術治療も行っていただきます。

変性疾患では脊椎疾患、膝関節に対する診断と治療方法について学んでいただきます。

4. 研修期間 1年間

5. 指導医

- ・大西 史師（日本整形外科学会専門医）

6. 研修医の方々へのメッセージ

今後整形外科を専攻する方は勿論のこと、専攻しない方へも一般救急外来で困らないレベルまで指導したいと考えております。

研修医の処遇及び募集

1. 研修医の処遇

区 分	内 容												
身分	正職員												
給与	<p>留萌市病院職員の初任給、昇格、昇給等の基準に関する規程に基づく</p> <p>【3年目】</p> <table style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>給 料 月 額</td> <td>4 3 3, 2 0 0 円</td> </tr> <tr> <td>諸 手 当 月 額</td> <td>1 8 7, 2 2 0 円</td> </tr> <tr> <td></td> <td>6 2 0, 4 2 0 円・・・①</td> </tr> <tr> <td>① × 1 2 月 =</td> <td>7, 4 4 5, 0 4 0 円</td> </tr> <tr> <td>期末勤勉手当等</td> <td>2, 1 9 7, 7 2 7 円・・・②</td> </tr> <tr> <td>①+② =</td> <td>9, 6 4 2, 7 6 7 円</td> </tr> </table> <p>上記の他、宿日直手当等の実績給や家族構成により扶養手当が加算されます。</p>	給 料 月 額	4 3 3, 2 0 0 円	諸 手 当 月 額	1 8 7, 2 2 0 円		6 2 0, 4 2 0 円・・・①	① × 1 2 月 =	7, 4 4 5, 0 4 0 円	期末勤勉手当等	2, 1 9 7, 7 2 7 円・・・②	①+② =	9, 6 4 2, 7 6 7 円
給 料 月 額	4 3 3, 2 0 0 円												
諸 手 当 月 額	1 8 7, 2 2 0 円												
	6 2 0, 4 2 0 円・・・①												
① × 1 2 月 =	7, 4 4 5, 0 4 0 円												
期末勤勉手当等	2, 1 9 7, 7 2 7 円・・・②												
①+② =	9, 6 4 2, 7 6 7 円												
勤務時間	8:45～17:15												
当直	約2～3回/月（手当あり）												
休暇	地方公務員法に準拠												
保険	北海道都市職員共済組合に加入												
健康管理	年2回健康診断実施												
医師賠償責任保険	<p>（社）全国自治体病院協議会病院賠償責任保険に加入（勤務医保険についても病院で包括加入）</p> <p>なお、個人加入については任意</p>												
外部の研修活動	学会や研修会への参加支援による職務専念義務免除あり（道内・道外1回ずつ。旅費は病院の規程により支給）												
宿舍	有（民間宿舍を借り上げ、個人負担1万円程度）												
キャリアパス	研修後は引き続き職員として採用可能												
ショートプログラム	当院から約50km北に位置する北海道立羽幌病院と天売・焼尻診療所を含めた3ヶ月のショートプログラム												

2. 募集

- 募集定員 / 診療科プログラムごとに若干名
資格 / 医師免許取得者で、医師法第16条の2第1項に規定する臨床研修を終了した方、または終了予定の方
出願期間 / 随時受付
提出書類 / 留萌市立病院後期臨床研修医研修申込書（様式1）
医師免許証（写し）
初期臨床研修修了証もしくは臨床研修を終了する見込みの証明書
保険医登録票（写し）
健康診断書（任意の様式、職場健診の結果でも可）
選考方法 / 書類審査及び面接（日程等は後日連絡）

応募・問合せ先

〒077-8511
北海道留萌市東雲町2丁目16番地1
留萌市立病院事務部医事課経営企画係
TEL：(0164) 49-1011
E-mail：iji@rumoi-hp.jp